

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 26 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24592457

研究課題名(和文)大規模コホート研究およびレセプトを基盤とした両親の産後うつ要因と弊害の新規抽出

研究課題名(英文) Surveys of novel risk factors for perinatal depression: A large-scale cohort epidemiological research project and a claims data-based study in Japan.

研究代表者

西郡 秀和 (NISHIGORI, Hidekazu)

東北大学・大学病院・准教授

研究者番号：40453310

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：宮城県と岩手県の被災地における東日本大震災と関連した産後うつ(EPDS9点以上)因子は、「津波への遭遇」「自宅の破壊・住居の変更」「環境不満」であった。震災後の宮城県にける産後うつとボンディング障害の産後1か月の検討では、エジンバラ質問票EPDS9点以上：母親11.8%vs父親8.4%、赤ちゃんの気持ち質問票7点以上：母親3.5%vs父親6.3%であった。

株式会社日本医療データセンターのレセプトデータを用いて、母親8,020名の妊娠期間の特定を可能にした。向精神薬の処方件数は妊娠期3.43%、分娩期10.3%、産後1年以内0.59%であった。

研究成果の概要(英文)：In coastal areas of Miyagi and Iwate, damaged by the 2011 Great East Japan Earthquake, exposure to tsunami, the destruction of homes and dissatisfaction with living conditions were more likely to cause perinatal depression in women who delivered after the disaster. Percentage of women who gave birth and their spouses with scores ≥ 9 on the Edinburgh Postnatal Depression Scale 1 month post discharge were 11.8% and 8.4%, respectively, and with scores ≥ 7 on the Mother-Infant Bonding Scale 1 month post discharge were 3.5% and 6.3%, respectively. The study evaluated the claims data of 8020 pregnant women from the Japan Medical Data Center. Percentage of prescription rates of psychotropic drugs is 3.43% during perinatal term, 10.3% within 7 days of delivery, and 0.59% for postnatal within a year.

研究分野：周産期医学

キーワード：周産期メンタルヘルス 産後うつ 東日本大震災 レセプト研究

1. 研究開始当初の背景

産後うつは、育児の主な担い手となる出産後の母親の自殺のみならず、不適切な育児や子ども虐待へと子どもの不利につながるなど、母子と家族に重篤な予後をもたらす危険性が高い。したがって、出産前後より、本疾患に取り組むことは、周産期・産科医として今後の重要な課題となる。しかし、まだその問題意識は低く、わが国の医学的、文化的背景の要素も取り入れた大規模研究はない。本邦では、父親の産後うつに対する社会的関心・認知度は、母親の産後うつよりも更に低く、その実態については殆ど調べられていない。特に2011年には東日本大震災が発生し、被災地における周産期メンタルヘルス調査が重要になる。

2. 研究の目的

(1) 東日本大震災の被災地における産後うつの実態調査を行い関連因子を明らかにする。

(2) 日本における母親・父親の産後うつとボンディング障害の頻度、および発症に関連する新規因子の同定のための基盤を構築する。

(3) レセプトデータは臨床研究では実現不可能な規模の大規模集団を対象とすることが可能であり、周産期メンタルヘルスに関しては、妊娠・産後に初めて診断された親の気分[感情]障害 (ICD-10: F00-F99) として同定が可能である。分娩後の精神障害と服薬状況を検討する。

3. 研究の方法

(1) 東日本大震災の被災地における産後うつの実態調査として

宮城県沿岸部 (被災地) の褥婦を対象に実

施された質問票を統計学的に解析した。

岩手県宮古市の基幹病院における震災前後の産後うつのデータを収集し統計学的に解析した。

(2) 「子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査)」の追加調査として、産後うつ調査: エジンバラ産後うつ病質問票 (Edinburgh Postnatal Depression Scale: EPDS) と虐待傾向の調査: 赤ちゃんへの気持ち質問票を母親と父親に行った。

(3) 株式会社日本医療データセンター; 健康保険組合レセプトデータを用いる。

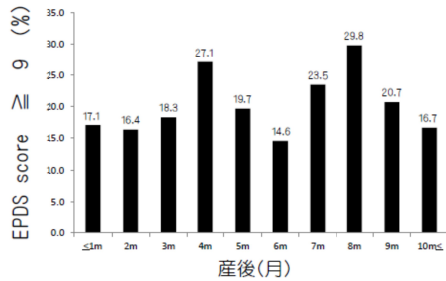
児の出生を把握する必要がある。児の出生に関して、その診療開始日、分娩時に用いられることの多い薬剤の情報とその処方日・調剤日に基づいて、児の出生日を推定する。その後、母親が児の妊娠・産後に初めて診断された『ICD10で精神及び行動の障害』の病名に基づき、母親の産後うつの罹患状況を捉えた。

4. 研究成果

(1) 東日本大震災の被災地における産後うつの実態調査

宮城県沿岸部 (被災地) の褥婦を対象に実施された質問票を統計学的に解析した。2011年2月1日~10月31日に宮城県沿岸部 (被災地) の医療施設で分娩した褥婦 3539 名に調査協力依頼、677 名 (19.1%) から回答を得て 633 名を解析した。

宮城県被災地
産後・月別のEPDS \geq 9の頻度
(n=633).



震災後6-9ヶ月後
EPDS \geq 9 平均21.3%

多重ロジスティック回帰分析では

<年齢 25歳以下>

(Odd ratio 2.539、95%CI1.151-5.599)

<出生体重 2500g以下>

(Odd ratio 2.197、95%CI1.218-3.962)

<津波に遭遇>

(Odd ratio 1.621、95%CI1.032-2.548)

が EPDS9 点以上と関連した。

岩手県宮古市基幹病院における調査

岩手県立宮古病院で分娩した褥婦；

震災前群 分娩数 141名

解析：退院時 141名 産後1か月 134名

震災後3か月以内群 分娩数 73名

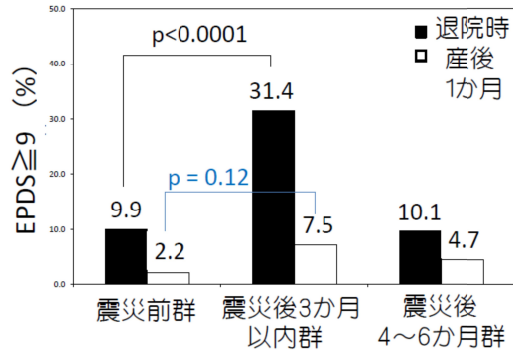
解析：退院時 70名 産後1か月 67名

震災後4~6か月群 分娩数 90名

解析：退院時 89名 産後1か月 86名

EPDS を用いてスクリーニングを行なった結果を、後ろ向きに解析して EPDS 9 点以上の頻度と関連因子を検討した。

岩手県立宮古病院
産後・退院時と1か月 EPDS \geq 9の頻度



多重ロジスティック回帰分析では

<住・環境への不満>

(Odd ratio 3.02、95%CI1.20-7.59)

<自宅の損壊>

(Odd ratio 2.68、95%CI1.46-9.26)

が EPDS9 点以上と関連した。

(2) エコチル調査は、全国では 103,104 人、東北大学ではエコチル調査宮城ユニットセンターとして、妊婦登録数：9,217 人と父親登録数：4,239 人を達成した。平成 26 年度で登録者の全員が分娩を終えた。宮城ユニット内で申請者が参画している追加調査には、母子 3,800 組と父親 1,587 人の同意を得た。産後うつとボンディング障害の産後 1 か月の検討では、エジンバラ質問票 EPDS9 点以上：父親 8.4%vs 母親 11.8%、赤ちゃんの気持ち質問票 7 点以上：父親 6.3%vs 母親 3.5%であった。

(3) 我々は株式会社日本医療データセンターのレセプトデータから妊娠中の医薬品使用状況に関する情報(曝露)および出生児の先天奇形に関する情報解析(アウトカム)することを試みた。その結果、2005 年 1 月~2011 年 6 月の健康保険における診療分約 90 万帳の

うち、健康保険組合が有する保険資格情報を元に、誕生年月と同月に保険加入した15歳以下の児33,864名を同定し、その母親8,020名の妊娠期間の特定を可能にした。ICD10で精神及び行動の障害（F00-F99）と診断された件数は妊娠期0.71%、分娩期0.24%、産後1年以内0.59%であった。向精神薬の処方件数は妊娠期3.43%、分娩期10.3%、産後1年以内0.59%であった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計5件)

Satoh M, Obara T, Nishigori H, Ooba N, Morikawa Y, Ishikuro M, Metoki H, Kikuya M, Mano N.

Prescription trends in children with pervasive developmental disorders (PDD): A claims data-based study in Japan.

World J Pediatr. 2015 in press 査読有

Nishigori H, Sasaki M, Obara T, Nishigori T, Metoki H, Sugawara J, Kuriyama S, Hosoyachi A, Yaegashi N, Kobayashi T, Yoshizumi N.

Correlation between the Great East Japan Earthquake and Postpartum Depression: a Study in Miyako, Iwate, Japan.

Disaster Med Public Health Prep. 2015 in press 査読有

Nishigori H, Sugawara J, Obara T, Nishigori T, Sato K, Sugiyama T, Okamura K, Yaegashi N.

Surveys of postpartum depression in

Miyagi Japan, after the Great East Japan Earthquake.

Arch Womens Ment Health. 2014; 17(6):579-581. 査読有

Nishigori H, Kagami K, Takahashi A, Tezuka Y, Sanbe A, Nishigori H.

Impaired social behavior in chicks exposed to sodium valproate during the last week of embryogenesis.

Psychopharmacology (Berl). 2013; 227(3):393-402. 査読有

西郡秀和 目時弘仁 八重樫伸生

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」と宮城ユニットセンターの現状報告

糖尿病と妊娠 2013; 13(1):13 - 19

査読有

[学会発表] (計2件)

西郡秀和、震災と周産期のメンタルヘルス、第11回日本周産期メンタルヘルス研究会・学術集会、2014年11月13日、大宮ソニックシティ（埼玉県さいたま市）

西郡秀和、岩手県宮古医療圏における東日本大震災前後の産後うつ発症率とリスク因子の検討、第50回日本周産期・新生児医学会学術集会、2014年7月15日、シェラトン・グランテ・トーキョーベイ・ホテル（千葉県浦安市）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西郡 秀和

(NISHIGORI, Hidekazu)

東北大学・大学病院・准教授

研究者番号 40453310

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者

栗山 進一 (KURIYAMA, Shinichi)

東北大学・災害国際科学研究所・教授

研究者番号 90361071

吉田 敬子 (YOSHIDA, Keiko)

九州大学・大学病院・特任教授

研究者番号 30174923

(4) 研究協力者

八重樫 伸生 (YAEGASHI, Nobuo)

小原 拓 (OBARA, Taku)

西郡 俊絵 (NISHIGORI, Toshie)

菅原 準一 (SUGAWARA, Junichi)